

## 研究主任研修会から

平成28年4月27日(水) 東山地域交流センターで管内小・中学校研究主任研修会を行いました。本研修会は、実践発表、パネルディスカッション・講義を通して、「児童生徒の学力を保障するための組織的な対応」について考えを深め、研究主任の先生方の実践意欲につなげることをねらいとして行いました。

### 1 実践発表

「学力保障の取組先進実践校における実践について」

昨年度の「学力保障の取組先進実践校」2校に実践発表していただきました。発表の一部を紹介します。

#### ＜奥州市立岩谷堂小学校 大平 智子 先生＞

○校内研究会における各種調査結果等を活用した授業力向上の取組

- \* 全国学力・学習状況調査を全教員で採点し、課題を明らかにした。
- \* 調査結果から明らかとなった課題を解決するための授業研究会を実施した。
  - ・ 自校で作成したリーフレットにより共通理解を図った。
  - ・ 指導案に諸調査結果の分析を明記した。
- \* 岩手県学習定着度状況調査を全職員で分析し、課題の共有化を図った。



#### ○組織的な対応

\* 学力向上担当・少人数指導担当が学年部会と教科部会をつなぐパイプ役となった。

#### ○小中連携

\* 「岩手県中学校新入生学習状況調査」の結果を基に課題を共有し、共通して実践していくことを確認した。

#### ＜一関市立大東中学校 大友 一篤 先生＞

#### ○授業改善に向けた取組

- \* 一人一授業公開を実施するために、各学期に1回、年間3回学年交流授業を実施した。
- \* 評価計画を作成した(短期シラバスの活用)。
  - ・ 教師が見通しをもって授業を進めることができるよう、学習課題とまとめ、評価確認問題を明記した。

#### ○家庭学習の質の向上・基礎基本の定着

- \* 各学年で必ず身に付けてほしい内容を盛り込んだ「まなびフェスト確認問題集」を作成し、生徒に配付した。
- ・ 定期テストの出題範囲に加え、成績に加味した。



・ 「まなびっこ検定」(8割以上合格)を実施した。

\* 生徒へ授業計画表を配付し、予習に活かせるようにした。

#### ○保護者との連携

\* 諸調査の学校独自の分析結果を保護者配付用リーフレットにまとめ、生徒個人の結果とともに配付した。

客観的データ(エビデンス)をより一層効果的に活用しながら、何が課題であるか、そのつまずきはなぜ生じているのかについて、指導方法のみならず学校体制を含めた解決の手立てを学校内で検討し、全職員が当事者として取り組むことが重要です。

子どもたち一人ひとりの学力を保障するために、研究主任、教務主任等の主任層を中核とした組織的対応をお願いします!



「いわたの授業づくり3つの視点」

### 2 パネルディスカッション・講義

「児童生徒の学力を保障するための組織的な取組について」

4校の研究主任の先生方にパネラーとして発表していただきました。フロアーの先生方からも積極的に意見が出されました。一部を紹介します。

#### ＜パネラー＞

- ・ 奥州市立水沢南小学校 武田 佳代 先生
- ・ 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校 齋藤 里香 先生
- ・ 一関市立萩任中学校 三浦 恵 先生
- ・ 平泉町立平泉小学校 小野寺 明子 先生

#### ○「調査結果活用レポート」の共通理解について

- \* 4月に転入教員に配付した。
- \* 4月の職員会議や研究会で確認した。
- \* 調査結果活用レポートを基に、学力保障に関わる年間計画を示した。



#### ○課題を改善するための授業改善の取組

- \* 一人一授業公開を実施する。
- \* 週録に授業の「課題」と「まとめ」をメモする。
- \* 学習課題と振り返りを位置付けた授業を全ての教科・領域で行う。
- \* 全職員で問題を解く機会を設定する。



#### ○「いわたの授業づくり3つの視点」リーフレットの活用

- \* 自校で作成している授業チェックリストの見直しに活用する。
- \* 本年度の研究の重点の見直しに活用する。

#### ○教務主任との連携

- \* 常に2人で相談する時間を確保しながら進める。
- \* まずは、調査結果活用レポートを教務主任と研究主任で共有する。

### 希望選択研修B

「『いわたの授業づくり3つの視点』に基づく授業の在り方」

午前中は、選択研修ABCを同時に行いました。Aは新任研究主任悉皆+希望、BCは希望としましたが、ABC合わせて38名の先生方の希望がありました。今回は、講義Bで確認したことを紹介します。

#### ＜「いわたの授業づくり3つの視点」作成の趣旨＞

- ・ どの校種、どの教科でも共通して取り組むべき授業の視点を明らかにし、考え方を同じにして授業改善を進めることによって、確かな学び、豊かな学びへとつなぐ。



#### ＜子どもの姿に求めたいもの＞

- ・ 自分のできるようになりたい。自分のできた。
- ・ 力をあわせて解決したい。力をあわせて解決できた。
- ※ 児童生徒の「興味・関心」を大切に、「自主的・自発的な学習」になるよう工夫することが大切です。
- ※ 講義Aは、「基本的な研究の進め方と研究主任の役割」、講義Cは、「特別に支援を要する児童生徒の学習指導」について研修しました。